

私がなぜ現在の科目を選んだか

「整形外科」

信州大学医学部運動機能学教室

岩川 紘子

初期研修医時代、救急外来の日当直では整形外科の先生の徒手整復や外固定などの初期対応をお手伝いする傍で、ご指導いただく機会に恵まれていました。救急へ下りてきて対応してくれる整形外科の先生方は私にとってとても頼もしい存在で、今では同門の先輩にあたるその先生方への憧れが整形外科医を考える最初のきっかけだったと思っています。研修病院では整形外科研修が必修であったことも私にとって大きな経験でした。整形外科研修では、初期対応の先にある手術・リハビリ治療を研修し、救急外来を受診した骨折の患者さんが機能を再獲得する過程に感銘をうけました。また手術では多様な手技で整復操作や固定に挑み、術後のレントゲンの出来をみて嬉しそうな整形外科の先生方の姿に感化されました。私も手を動かすことが

私がなぜ現在の科目を選んだか

「心臓血管外科」

信州大学医学部外科学教室

心臓血管外科学分野

茅野 周治

そもそも私が医師を目指す動機となったのが、中学生の頃に祖父の死を目の当たりにしたことでした。私を常に応援し、教育してくれた祖父が、集中治療室のベッドに横たわり、モニター上徐々に徐脈となっていく状況で、今の自分には何も出来ないことを非常に無力と感じたことを覚えています。今思い返すと、心臓血管外科という救命の最前線に身を置いていることも、そのような憧憬が影響していると思われま

す。信州大学に入学し、音楽を専攻したのではと思うほど学生時代は趣味であるチェロに没頭しておりましたが、6年生の選択実習にて諏訪赤十字病院の心臓血管外科にて実習をさせて頂いたことが、心臓血管外科に興味を持つ最初のきっかけとなりました。拍動している心臓の神秘さ、何よりも心臓血管外科手術の美しさに魅了されました。

卒業後1年目は信大病院での勤務となり、4月初め

好きだったため、整形外科の研修最終日には自分の性に合っているのではと感じるようになっていました。体力には自信がありませんでしたし、運動器の構造と機能の複雑さや治療の多様さから自分に務まるか不安でしたが、直感を大事にしようと思い整形外科を決断したのは研修医2年目の冬でした。

現在は上肢と小児を中心に勉強しています。上肢の治療と機能改善を通して患者さんができるようになったことを報告してくれたり、また困っていることを一緒に解決してゆけたりすることにとってもやりがいを感じます。初期研修医時代、予後不良の担当患者様に最後まで向き合うことが出来なかった経験がずっと心残りです。患者さんに長く寄り添うことを自分への戒めとしています。患者さんから日々教えられていると感じています。まだまだ学ぶことがあり、技術的だけでなく人間的にも足りないところを感じていますが整形外科を選択し日々充実しています。(山形大平21年卒)

から心臓血管外科の研修となりました。当時の心臓血管外科は先代の岡田健次教授が主宰されており、様々な予定手術の上、急性大動脈解離を中心とした胸部大動脈緊急疾患にも積極的な治療を進められておりました。何日も研修医室のソファにて短時間の仮眠で夜を過ごし、正直申し上げて他の研修医との差は大きいものではありましたが、学生時代とは違い術後や病棟管理にも関わり、心臓・循環という刻一刻と変動していく治療に、非常に面白さを感じました。ある意味物理学的な思考が必要であり、それが自分自身の性格に非常にマッチしていたものと考えます。初期研修での経験が決め手となり、現在に至ります。

心臓血管外科が他の外科と異なる点としては、心臓においては機能外科であることが挙げられます。患者様のQOLの改善を一番の目標とし、初心を忘れず、忙しくも充実した外科医生活を邁進していきたいと思

います。現在瀬戸達一郎教授のもと緊急手術を含め積極的に日々診療を進めると共に、当科ではWork Life Balanceの改善にも取り組んでいます。忙しく厳しいと思われがちの当科ではありますが、今後は後輩に少しでも心臓血管外科治療の魅力を伝えていければと思います。

(信大平27年卒)